

Sustainability Design Company

地域社会の未来を描く

SDGsへの取り組み

2019年6月11日

株式会社 滋賀銀行

滋賀銀行の経営理念

行 是 1966年制定

自分にきびしく 人には親切 社会につくす

CSR憲章(経営理念) 2007年制定

地 域 社 会
役 職 員
地 球 環 境

共存共栄

滋賀銀行のCSRの歴史



- ‘84年 「社会福祉法人しがぎん福祉基金」設立
- ‘99年 「環境方針」制定
- ‘00年 「ふれあい環境室」設置
「ISO14001」認証取得
- ‘04年 「CSR室」、「CSR委員会」設置
- ‘05年 「しがぎん琵琶湖原則(PLB)」策定
※「環境金融」の推進
- ‘07年 基礎的内部格付手法(FIRB)を金融庁承認
「CSR憲章」と「滋賀銀行の行動規範」制定
- ‘08年 「エコ・ファースト企業」として環境省より認定
- ‘10年 「生物多様性保全方針」制定
- ‘13年 創立80周年
「地域振興室」設置(「地方創生」の支援)
- ‘16年 ポジティブアクション
「プラチナくるみん認定」、「イクボス宣言」
- ‘17年 しがぎんSDGs宣言

「環境経営」 ～ 経営に環境を取り込む ～

琵琶湖

生物多様性 / 1450万人の水源

「環境経営」

高い環境意識

琵琶湖「石鹼運動」

「三方よし」

受け継がれる精神

「環境経営」 ～ 3つの取り組み～

エコオフィスづくり

エコスタイル



リサイクル



ソーラーパネル



環境金融



環境ボランティア






ヨシ刈りボランティア

外来魚駆除・釣りボランティア

「環境金融」 ～ 本業で地球環境を守る ～

環境預金

<p>お客さま 預けてよし</p> <p>金利がプラス</p> 	<p>しがぎん 預かってよし</p> <p>紙使用量を削減</p> 	<p>小・中学校、琵琶湖 等 世間・環境によし</p> <p>ピオトープづくり ニゴロブナ・ワタカの放流</p> 
---	--	--

環境 コミュニケーション

SDGsビジネスマッチングフェア



環境融資

① 賛同	② 格付	③ お借入
<p>11,133 件 (事業先比59.6%)</p>	<p>PLB格付 10,750 先 (事業先比57.6%)</p> <p>PLB格付BD 5,837 先 (事業先比31.3%)</p>	<p>PLB格付実行件数累計 1,883 件</p> <p>PLB格付BD実行額累計 総額 371 億円</p>
(2018年7月末実績)		

ESG投資

JICA債「国際協力機構債券」

- 開発途上地域の経済発展に寄与
- 長期的な視点で、環境配慮や社会的課題の解決に貢献

※JICA債: JICAが開発援助を実施するための資金調達を目的に発行する債券。
調達資金は、開発途上国向けの有償資金協力が全額充当されます。

「低炭素日本株ファンド」

- 温室効果ガスの排出量を公表し、低炭素化に向けて積極的に取り組んでいる企業を投資対象として銘柄を選定。

「日本学生支援債券」

- 教育の機会均等を通じて、次世代を担う人材の育成に貢献

※日本学生支援債券: 独立行政法人 日本学生支援機構が担う奨学金事業のうち、貸与奨学金の財源として発行する債券

「環境ボランティア」 ～ いきものがたり活動 ～

里山の保全



ヨシ苗植え
(秋)



森づくりサポート活動

(夏)



学校ビオトープ



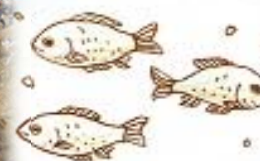
外来魚駆除・釣り(春)



ヨシ刈り(冬)



ニゴロブナ
の放流
ワタカ
の放流



「エコオフィスづくり」 ～カーボンニュートラル店舗～

CO₂排出量を削減する省エネルギー技術

- ① タスクアンビエント照明
- ② LED照明
- ③ 全熱交換機 (CO₂センサー付き)
- ④ 自然風利用
- ⑤ 雨水散水利用
- ⑥ 電気自動車用充電スタンド
- ⑦ 日除け庇
- ⑧ 自然光利用
- ⑨ 遮熱断熱防犯ガラス
- ⑩ 太陽光発電



スカイライトチューブ



324枚の
太陽光パネル



店舗イメージイラスト

SDGs (持続可能な開発目標)

SDGs

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。

17のゴール・169のターゲット

<基本理念>

「Put the Last First」

「No one will be left behind」



パラダイムシフト ～2015年は歴史的転換点～

1. 世界での出来事

- 1) 持続可能な開発のためのアジェンダ2030 (SDGs)
- 2) 気候変動枠組条約 (COP21) パリ協定採択
- 3) サーキュラー・エコノミー・パッケージ採択

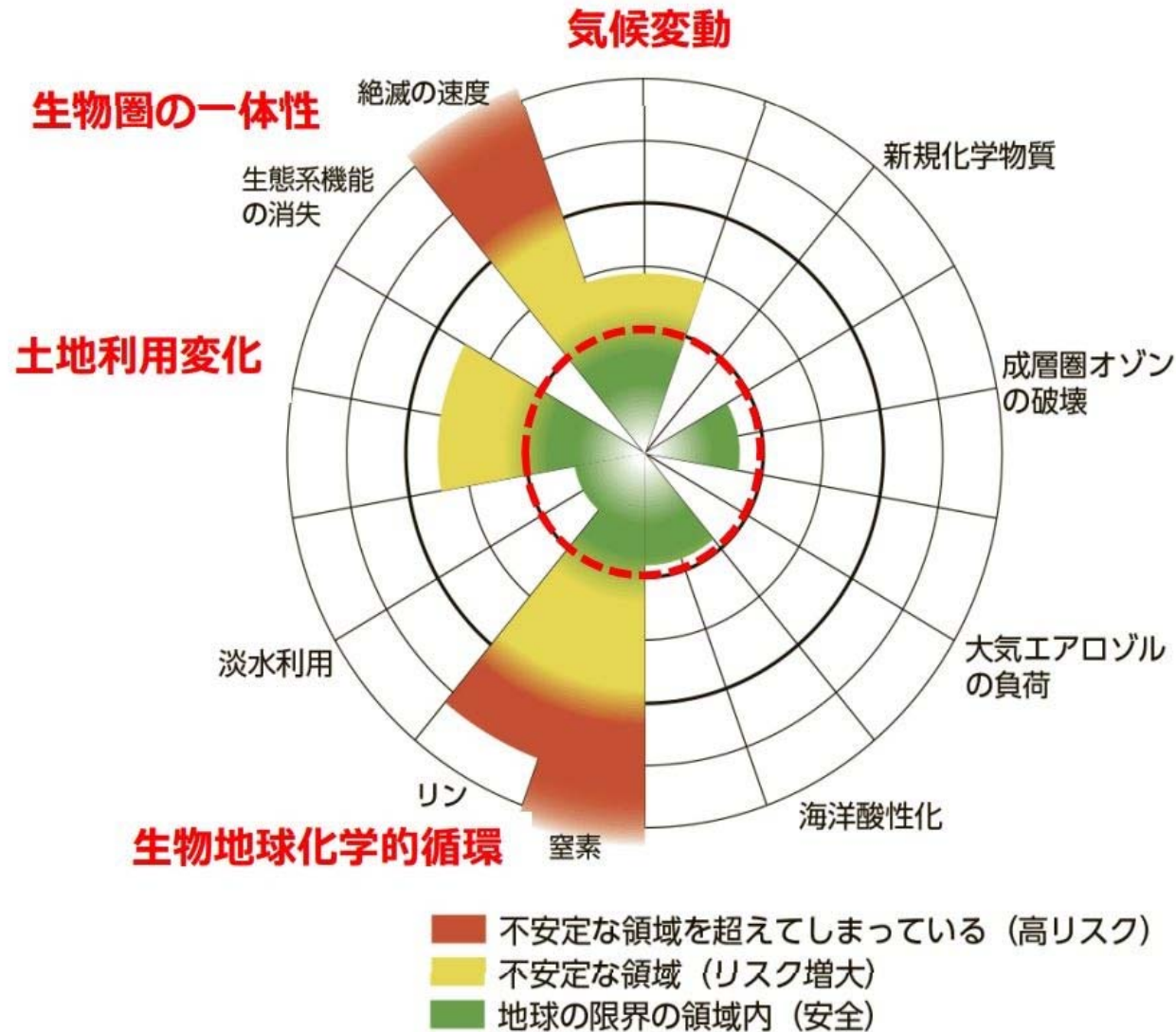
2. 日本での出来事

- 1) GPIFが国連責任投資原則 (PRI) に署名
- 2) トヨタ
「環境チャレンジ2050」



トヨタ自動車ホームページ 「トヨタ環境チャレンジ2050」より

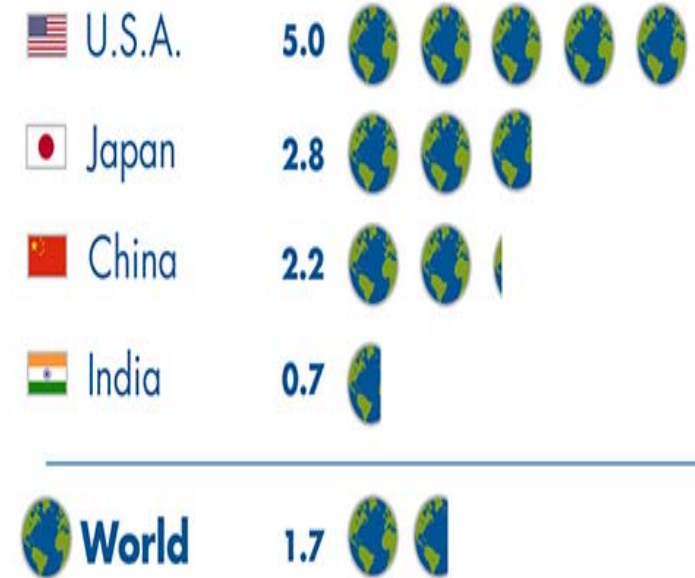
地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)



資料 : Will Steffen et al.「Planetary boundaries :Guiding human development on a changing planet」より環境省作成

地球は何個必要？

もし世界人口がその国と同様の生活をしたら...



Source: Global Footprint Network National Footprint Accounts 2018

(WWFジャパン ホームページより)

2018年の異常気象(気象庁)

- 気象庁によると、**2018年7月は気温が高く、日照時間が長かったことに加え、記録的な大雨「平成30年7月豪雨」が発生。熊谷市の観測史上最高気温（41.1℃）等、多くの記録が更新された。**

【日本の2018年7月の天候】

(出所) 気象庁 (2018) 「7月の天候」
(2018年8月1日公表) 等より環境省作成。

気温

- 北・東・西日本でかなり高く、東日本では平均気温が平年+2.8℃となり、7月として統計開始以来第1位の高温に。西日本でも同2位を記録した。
※平年値は1981年から2010年の観測値を基に算出された。
- 7月23日、**埼玉県熊谷市で41.1℃を観測し、歴代全国1位を更新した。**



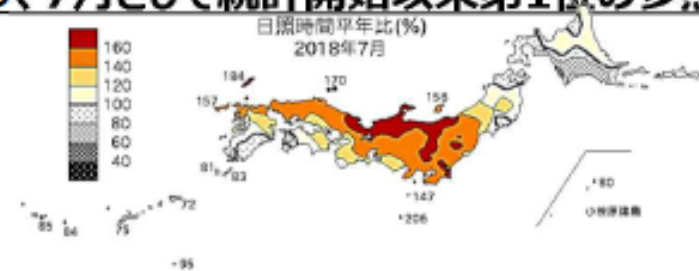
降水量

- 北日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美では、降水量がかなり多かった。
- **西日本を中心に全国的に記録的な大雨「平成30年7月豪雨」が発生した。**



日照時間

- 東日本と西日本日本海側では、日照時間がかなり多かった。
- **東日本・日本海側で日照時間が平年の179%となり、7月として統計開始以来第1位の多照に。**



近年の気候変動の影響

- 2011年のタイの洪水では、工業団地が浸水し、多くの日本企業が操業停止等の影響を受けた（洪水で浸水した自動車工場）



(出所)ロイター

- 平成27年9月関東・東北豪雨による被害（茨城県常総市の浸水状況）



(出所)国土交通省

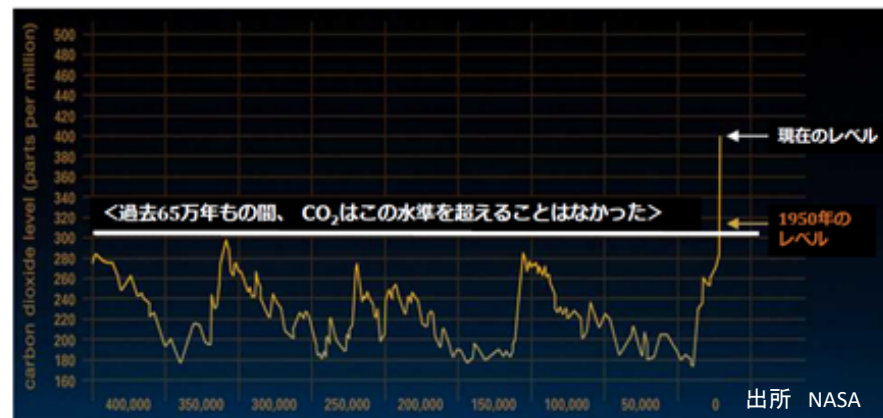
- 1979年9月（左）と2011年9月（右）の北極海の海氷の様子



(出所)米コロラド大氷雪データセンター/Google Earth

地球温暖化の現状

▶ 産業革命以降、大気中のCO₂の平均濃度は急上昇。経済活動を通じた人為起源のCO₂排出量の急増が主因とされ、これに伴い世界の平均気温も上昇傾向にある。



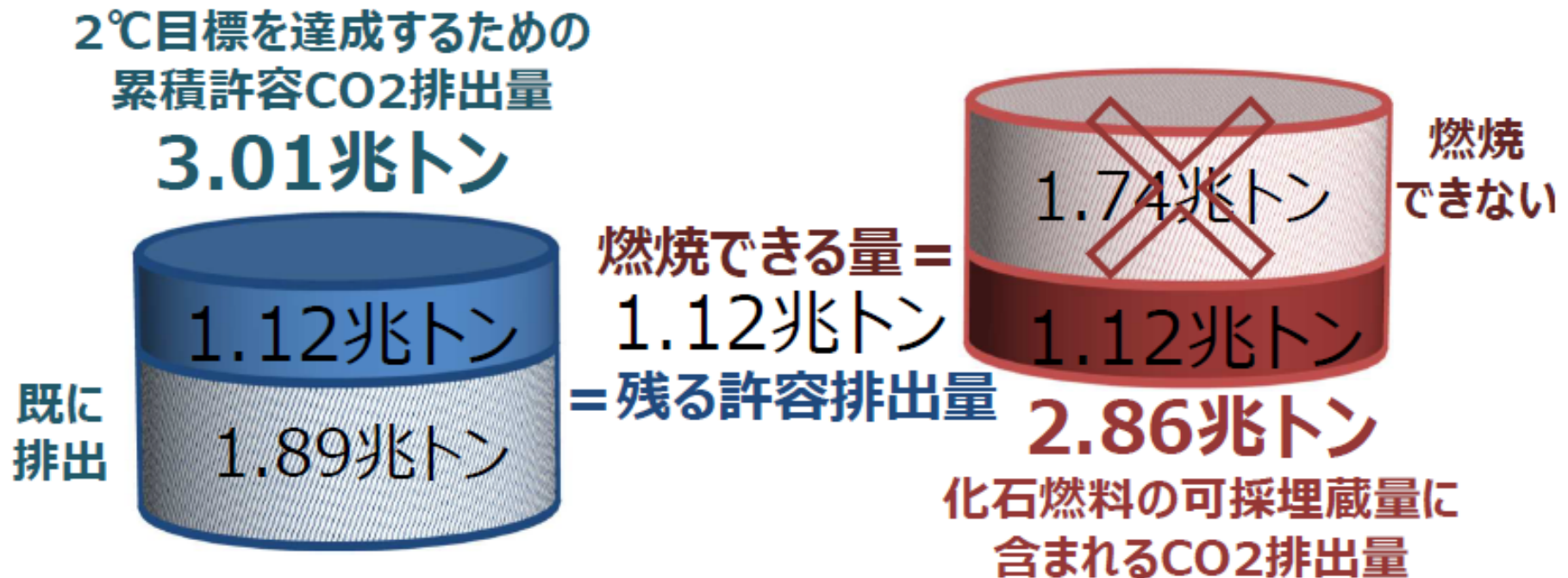


(出所) 損保協会より提供

座礁資産(CO₂はあとどれだけ出せるのか)

～累積許容CO₂排出量と化石燃料の可採埋蔵量に含まれるCO₂排出量～

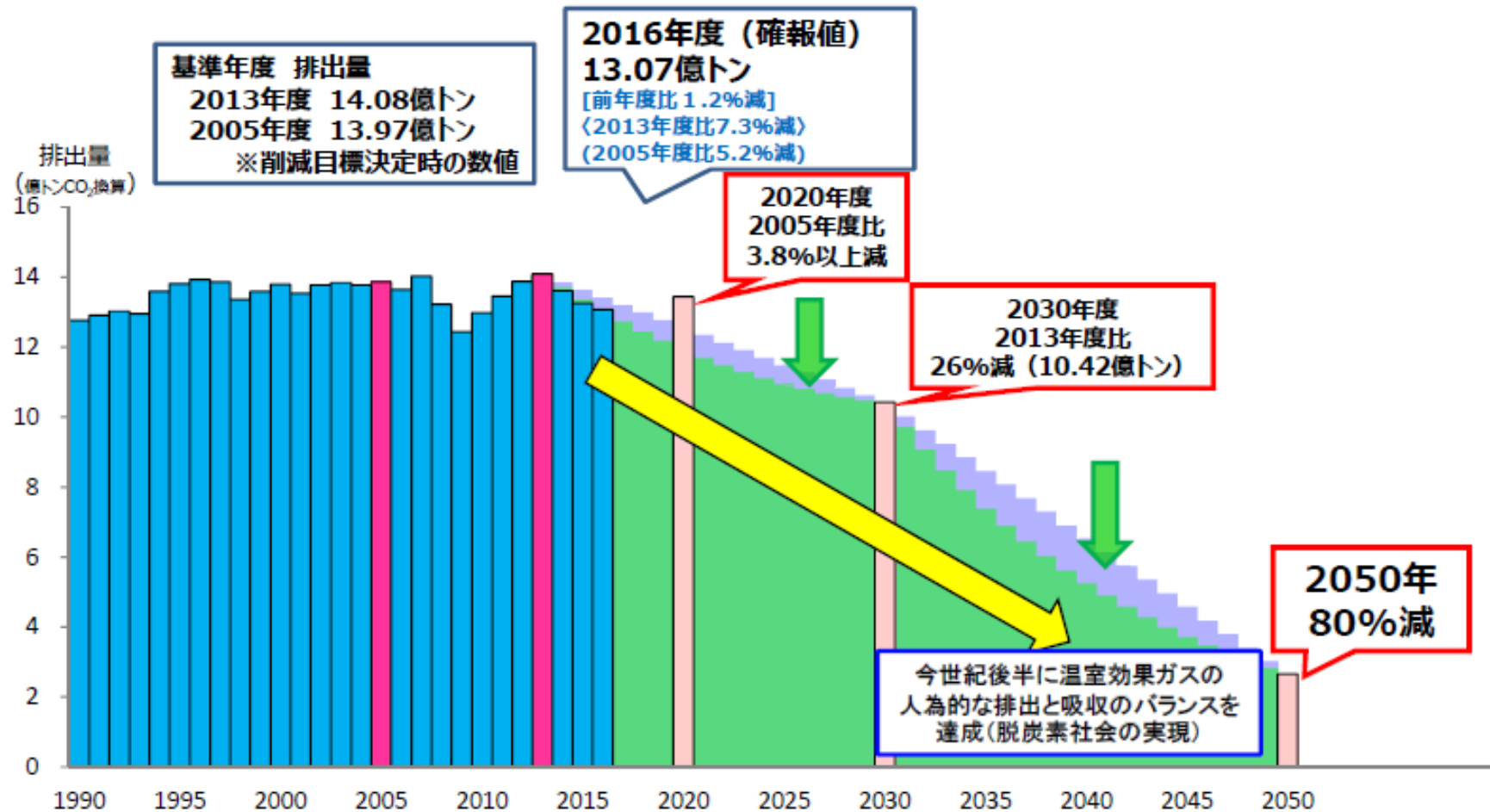
- 累積CO₂排出約3兆トンで、地球全体の平均温度は2度上昇 (IPCC)。
- 既に約2兆トン排出、残り約1兆トン (現行ペースで約30年)。化石燃料の埋蔵量を全て燃やすと約3兆トン排出相当、つまり3分の2は単純には燃焼できない。



出所 OECD "Divestment and Stranded Assets in the Low-carbon Transition", p.4, 2015年10月 (化石燃料の可採埋蔵量についてはCarbon Tracker Initiative and The Grantham Research Institute, LSE "Unburnable Carbon 2013: Wasted capital and stranded assets"が原著) を基に環境省作成

CO₂排出量の削減方針

- パリ協定の下では、今世紀後半に従来通りには、化石燃料を燃やせない時代が到来するため、累積排出量をより小さくしながら脱炭素社会を目指す必要がある。



(出所)「2016年度の温室効果ガス排出量(速報値)」及び「地球温暖化対策計画」から環境省作成



第17回未来投資会議

「もはや温暖化対策は、企業にとってコストではない。競争力の源泉であります。」

「環境と成長の好循環をどんどん回転させ、ビジネス主導の技術革新を促す形へと、パラダイム転換が求められています。」

- 2015年12月 金融安定理事会(FSB)主導の気候関連財務情報開示タスク
- 2016年 5月 SDGs推進本部の設置(内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚が構成)
- 2016年 6月 「金融行政とSDGs」発表
- 2017年11月 経団連:「企業行動憲章」と「実行の手引き」をSDGsの達成を柱として改定
- 2018年 3月 全銀協:「行動憲章」にSDGs、ESG強化を盛り込む。

なぜ SDGs に取り組むのか

1. SDGs はビジネスチャンス

- ・革新的なソリューションや抜本的な変革による利益増大
- ・ビジネスモデルの変換

⇒社会貢献活動から、本業による**課題解決型ビジネス**へ

2. 企業価値の向上に資する

- ・イノベーションの発揮、新たなビジネスモデルの構築
- ・資源の効率的利用による生産性の向上

3. ステークホルダーとの関係強化・協働

- ・環境（Environment）、社会（Social）、企業投資（Governance）に配慮している企業を重視・選別して行う投資（ESG投資）が活発化
- ・SDGs を経営に統合することで、すべてのステークホルダーとの協働を強化
⇒レピュテーションリスクが低減

SDGsに取り組まない企業は **“生き残れない時代”**へ

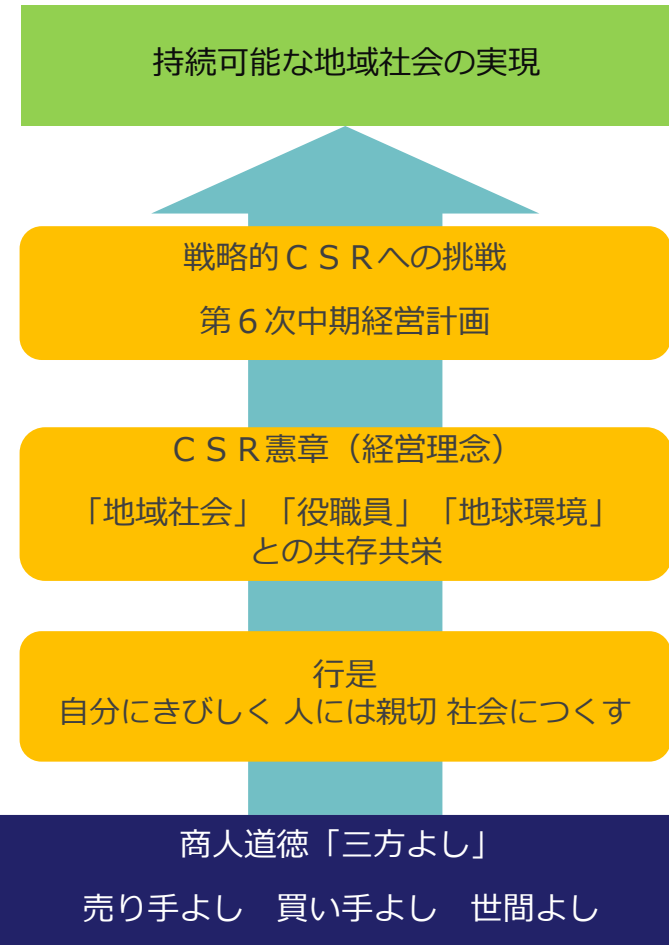
しがぎんSDGs宣言

持続可能な社会の実現に向けて「しがぎんSDGs宣言」を表明

地銀初

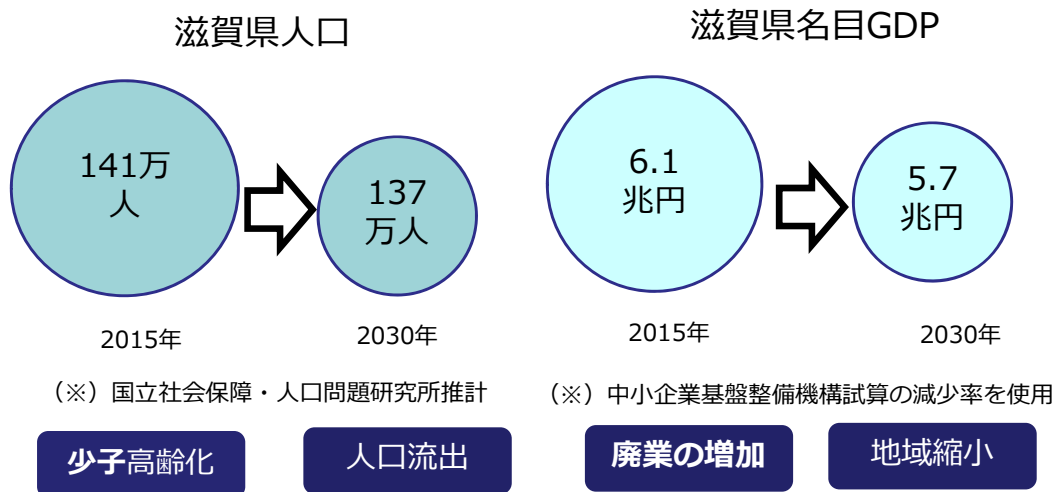


SDGsを
活用して
CSR経営
をさらに深化



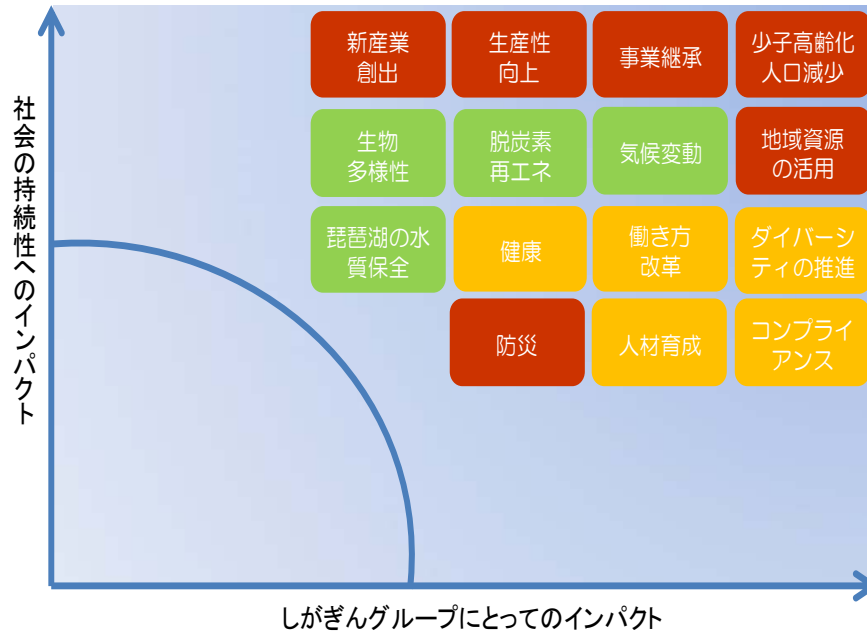
当行のマテリアリティ（重要課題）

地域の課題

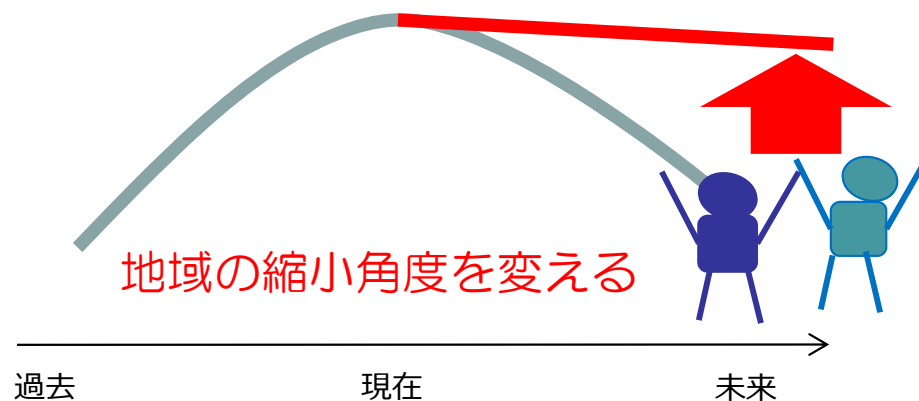


地域の悩みは、当行の課題。
地域の課題に正面から向き合う。

しがぎん課題マッピング



今後の地元GDPのイメージ



当行の課題

- 低金利の継続
- 競争激化
- FinTechの進展
- B/S拡大型ビジネスの転換期
- 顧客ニーズの多様化
- ライフサイクルの変化

しがぎん「SDGsの活用」～2つの視点～

1. 短期的な視点

- 1) SDGsに紐付ける（業務のたな卸し） ⇒ 17のゴールにリンクする活動
- 2) 新たな取り組み
 - ①ニュービジネスサポート資金など新たな金融商品をリリース
 - ②サタデー起業塾「SDGs賞」新設

2. 中長期的な視点

SDGsを経営に統合する

⇒ 長期目標の策定と中期経営計画へのリンク（バックカスティング思考）

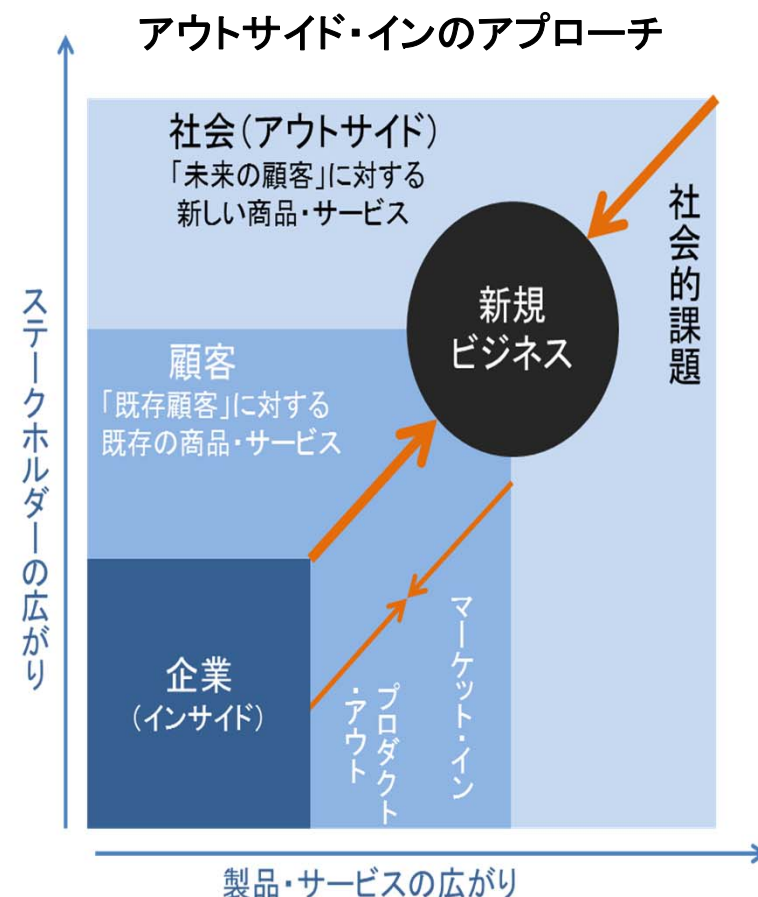
<SDGコンパスの活用>

- ①優先課題を決定（マテリアリティ）
- ②目標を設定（中長期的目標・・・KPI）
- ③経営に統合する（中期経営計画策定、営業推進方針、人事制度等）
- ④報告とコミュニケーション

活動をSDGsに紐付ける

戦略	分類	商品・サービス	CSRレポート掲載ページ	SDGsへの貢献
本業を通じた社会的課題の解決	地域産業振興	エコビジネスマッチングフェア	8	1 貧困をなくそう, 2 気候をゼロに, 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 8 働きがいも経済成長も, 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
		サタデー起業塾	5	
		クラウドファンディング	5	12 つくる責任 つかう責任, 13 気候変動に具体的な対策を
		GAP認証取得サポート	2	
	次世代育成	CSR私募債	2	3 すべての人に健康と福祉を, 4 質の高い教育をみんなに
		未来リーと定期預金	6	
	金融サービス	エコプラス定期預金	8	6 安全な水とトイレを世界中に, 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 15 陸の豊かさも守ろう
		しがぎん琵琶湖原則	8	
業務における環境課題の解決	エコオフィスづくり	ISO14001、温室効果ガス排出量削減、紙使用量削減、グリーン購入etc.	9	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 12 つくる責任 つかう責任, 13 気候変動に具体的な対策を, 15 陸の豊かさも守ろう
本業を支えるCSR基盤の強化	人材活用・労働環境改善	人権研修、女性活躍推進、プラチナくるみん、BCP策定etc.	12	3 すべての人に健康と福祉を, 5 ジェンダー平等を促進しよう, 8 働きがいも経済成長も, 10 人や国の不平等をなくそう
	環境保全・生物多様性保全	いきものがたり活動 地域ボランティア	10	6 安全な水とトイレを世界中に, 11 住み続けられるまちづくりを, 13 気候変動に具体的な対策を, 15 陸の豊かさも守ろう
	福祉・文化・その他	しがぎん福祉基金、KEIBUN文化講座、ユニセフ外国募金、オレンジリボン、しがぎんカップetc.	6・8	2 気候をゼロに, 3 すべての人に健康と福祉を, 4 質の高い教育をみんなに, 8 働きがいも経済成長も, 16 平和と公正をすべての人に

SDGs を新商品・サービスへ展開



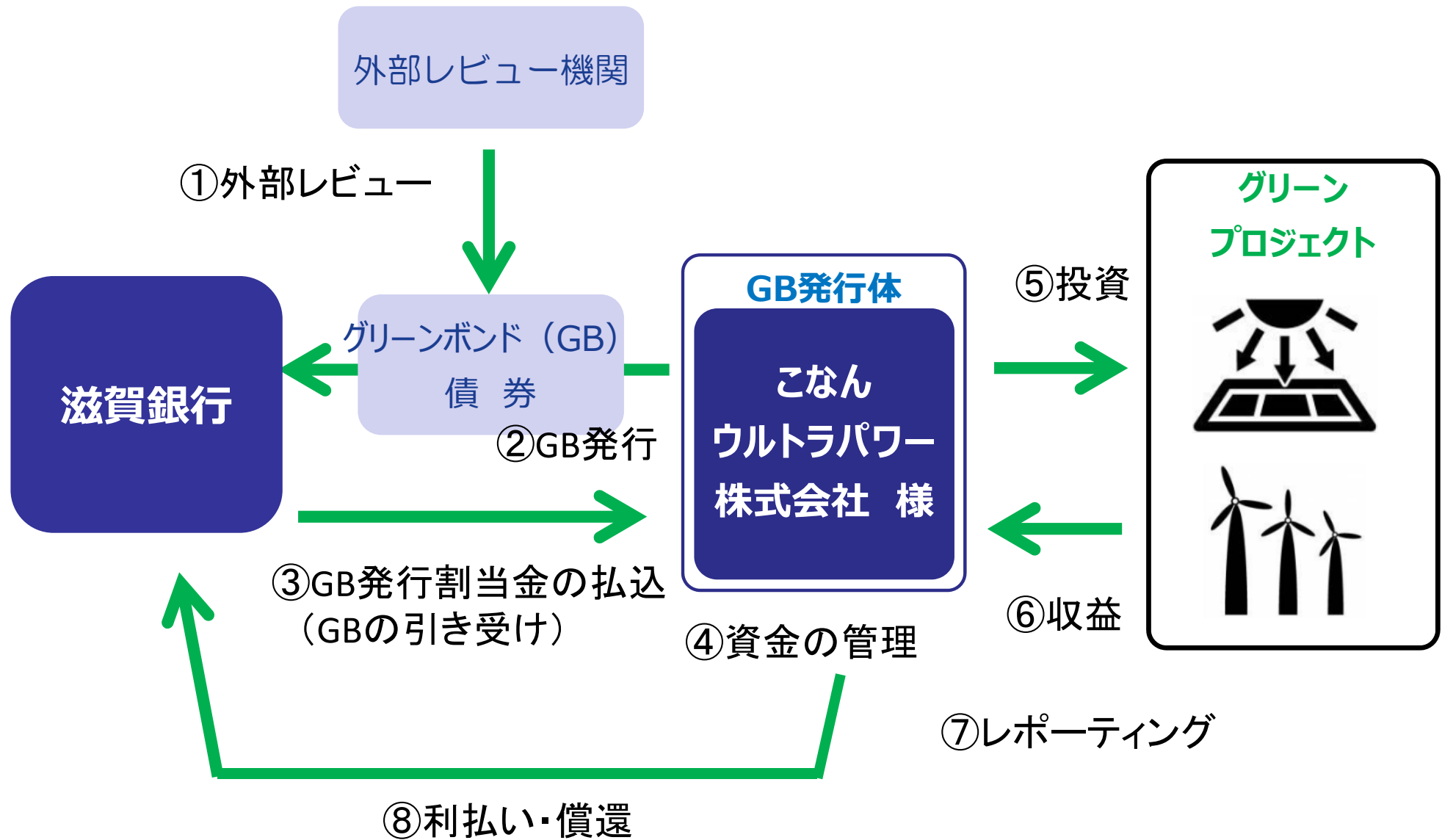
社会的課題解決を起点としたビジネスの創出に向けた取り組みをサポート

滋賀銀行の取り組み事例

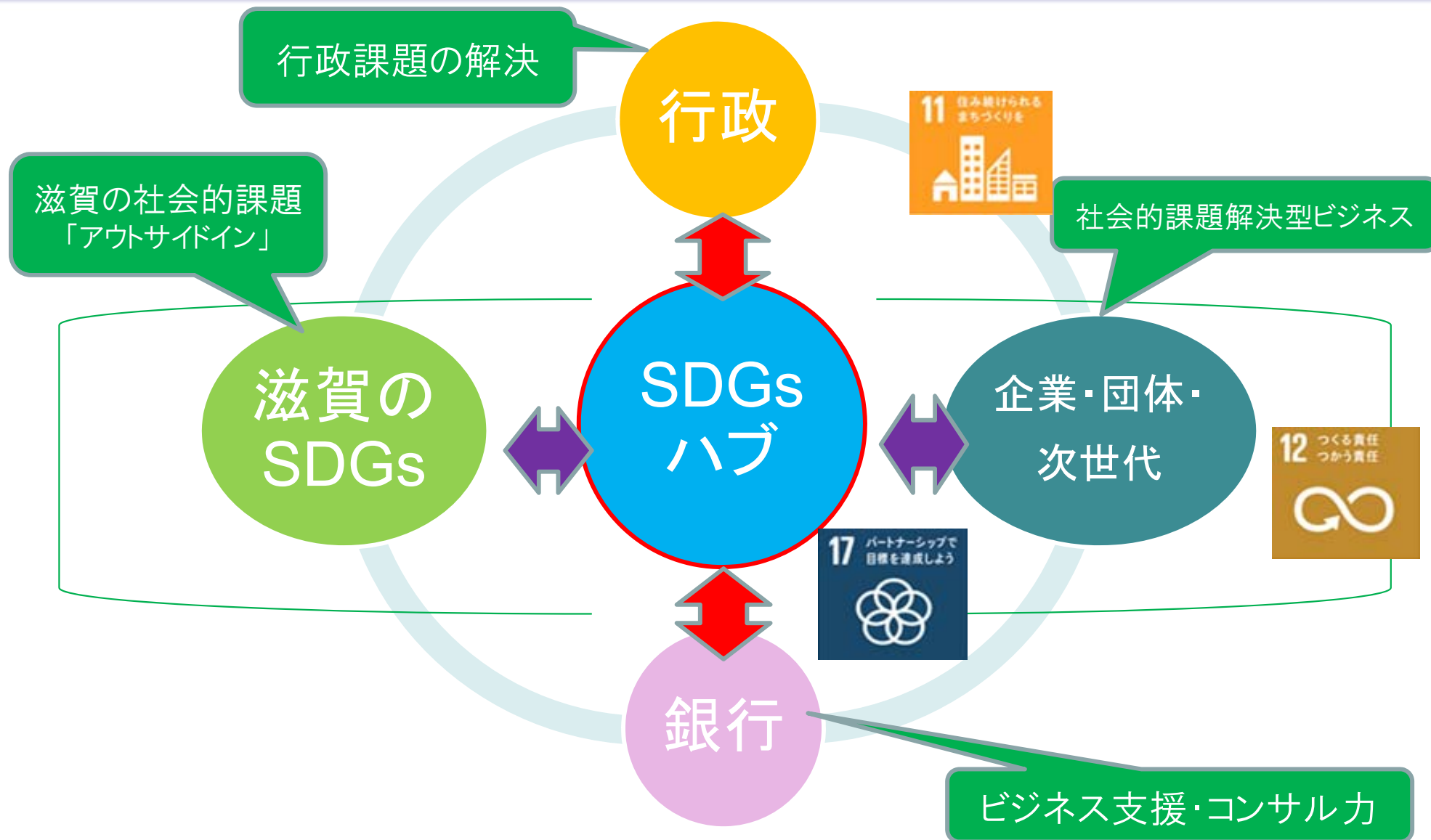
- 株式会社A社（滋賀県草津市）は、平等院鳳凰堂の阿字池（宇治市）や円覚寺の妙香池（鎌倉市）の水質を浄化した実績を持つ。
- 当行は「**ニュービジネスサポート資金（SDGsプラン）**」第1号を実行し、持続可能な社会に貢献する事業をサポート。
- 同社はさらに、水質浄化技術を応用した陸上養殖事業に挑戦。当行は「**しが6次産業化ファンド**」を通じた出資により支援。



グリーンボンド（GB）引受



滋賀SDGs×イノベーションハブ



SDGsの活用

～ バックキャスティング思考 ～

サステナビリティビジョン（長期ビジョン）

＜不変の精神＞

行 是 : 「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」
 CSR憲章 : 「地域社会」「役職員」「地球環境」との共存共栄

＜目指すべき地域社会の姿＞

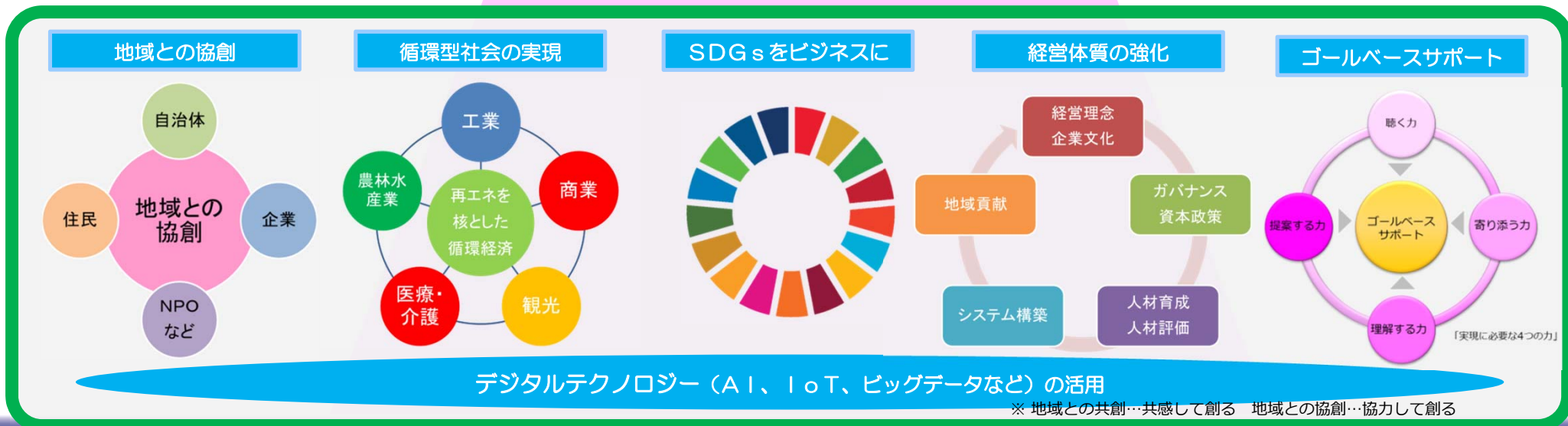
自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮らせる社会
 ～地域との共創による持続可能な社会の実現～

経済・環境・人をつなぐ（統合的發展）

2030年のマイルストーン（ターゲット2030）

<p>＜地域経済の創造＞ Sustainable Development推進投融资 新規投融资額 累計1兆円</p>	<p>＜地球環境の持続性＞ 温室効果ガス排出量 30%以上削減 (2013年度比較)</p>	<p>＜多様な人材の育成＞ SDGs・金融リテラシー の普及・向上活動、 次世代人材の育成活動 実施人数延べ1万人</p>
--	---	---

3つの挑戦指標を通じて経済的価値と社会的価値を創造し、両立することで地域社会の発展に取り組んでまいります。



マイルストーン1：地域経済の創造（課題解決型ビジネス）

KPI： Sustainable Development推進投融资
新規投融资額 累計1兆円

格付CS先への
新規融資額

※格付CS先 = 事業性評価先

SDGs型商品
新規投融资額

ESG新規投資額

- ・ 創業・第二創業（Sustainable Development 推進投融资・NB資金、成長ファンド）
- ・ 売上向上支援（ビジネスマッチング・クラウドファンディング）

地域顧客の価値向上サポート

- ・ 成長支援コンサルティング
- ・ 事業承継対策／M&A
- ・ ITビジネスサポート

「経営課題の解決」による持続可能な企業価値の向上
「本業支援」によりお取引先の売上、利益、雇用の拡大を目指す。

「格付CS・格付SS」 + 事業性評価



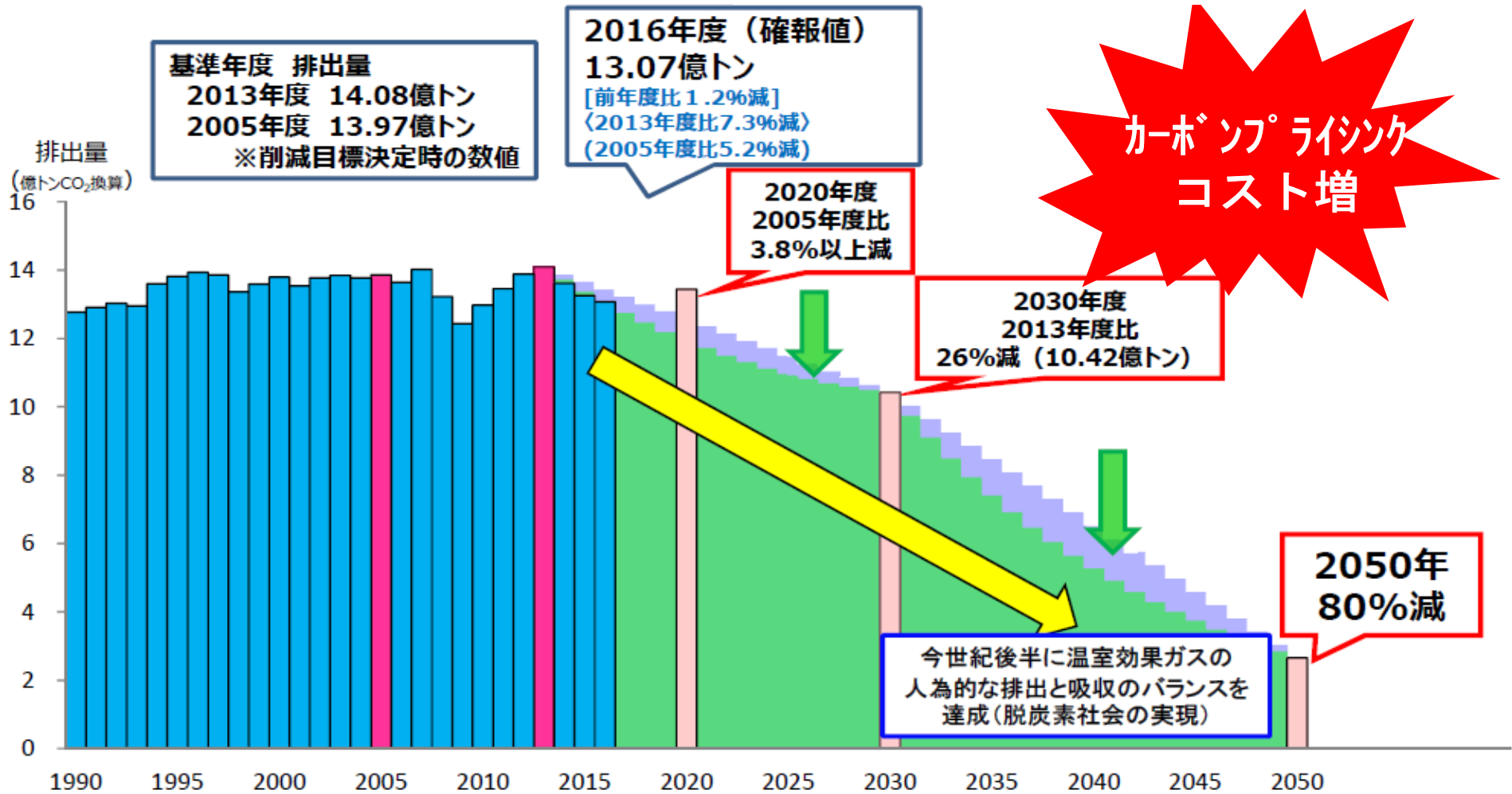
当 行



お 取 引 先

マイルストーン2：地球環境の持続性

KPI：CO₂ 30%以上削減
(2013年度対比)



(出所)「2016年度の温室効果ガス排出量(速報値)」及び「地球温暖化対策計画」から環境省作成

マイルストーン3：多様な人材の育成

KPI：SDGs・金融リテラシーの普及・向上活動、
次世代人材の育成活動 実施人数延べ 1万人

行内向け研修

「課題解決型人材」の育成
FP、中小企業診断士等各種資格の取得

行外向け研修 行外での講演

小中学校等 リテラシー教育の開催(本部・各店)
KEIBUN講座・セミナーの実施
中学生チャレンジウイーク、インターン
プレジデント、ニューリーダー、経友会、資産運用セミナー

CSR通信 No.19 持出区分【店長承認】総合企画部 2019年3月22日

唐崎小学校でSDGsの授業を行いました!

2月28日(木)、大津市立唐崎小学校の6年生約130名を対象に、「SDGsってなに?~“自分ごと”で考えよう~」と題したSDGsの出前授業を行いました。「児童にSDGsを通して社会を学んでもらいたい」との藤本毅校長先生の思いをキャッチされた唐崎支店の木村育支店長からのご提案により、実現したものです。

当日は、動画やイラストを用いてSDGsとは何かを学んでもらうとともに、身近なゴール(「2 飢餓をゼロに」等)を例に挙げ、世界の子供たちが置かれている現状に対して自分たちができることは何かをみんなで考えました。

授業の最後には、「私のSDGs宣言!」を一人ひとりに表明してもらいました。「嫌いだからといって食べ物を残すのはやめる!」や「頑張って勉強して、学校に行けない困った子も先生の先生になる!」など、SDGsを“自分ごと”と考えてくれるみなさんの姿に触れ、企業として果たすべき責任を感じました。

木村支店長さんお手製のSDGs Tシャツです!

藤本校長先生(左)と木村支店長さん

皆さん真剣なまなざしで説明に耳を傾けていました

私のSDGs宣言!作成中!

当行は、第7次中期経営計画の挑戦指標として、「SDGs・金融リテラシーの普及・向上活動、次世代人材の育成活動」を掲げています。
当行から情報を発信することで、お取引先・地域の皆さまに社会的課題を「自分ごと」として捉えていただき、パートナーシップ(連携)で持続可能な社会を創りましょう!

第7次中期経営計画の概要

目指す姿

「Sustainability Design Company」

～「三方よし」から「共存共栄」の実現へ～

メインテーマ

未来を描き、夢をかなえる

～お客さま・地域社会・役職員の未来をともに～

未来創造挑戦項目

SDGsをビジネスへ

地域社会の生産性向上

課題解決型金融情報サービス業への進化

持続可能な収益
構造への転換

考働改革
(考え方改革、働き方改革)

経営基盤の充実（経営理念・人材・ガバナンス・自己資本・システム）

第7次中期経営計画

次期以降

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度

2024年度

2025年度

2026年度

2027年度

2028年度

2029年度

2030年度

2031年度

2032年度

2033年度

イベント

東京五輪

びわこ国体

大阪万博

SDGs目標

当行

オペ改完了

基幹系更改

90周年

95周年



100周年

目指すべき姿と中期経営計画の関係

社会起点

項目	抱える課題	課題解決方法
地域	・人口減少	・循環型社会の実現
	・エネルギー不足	・地公体との連携 ・IT化・省エネ
企業	・売上の減少	・SDGs社会への対応
	・後継者不足	・廃業を抑え、起業を増やす
個人	・人生100年時代の対応	・金融資産を増やす・つなぐ
		・金融リテラシーの向上



バックカスティング
(やるべき課題を洗い出す)

ギャップを融合

中計

中計

6次中計

現在

パラダイムシフト

7次中計

現在の延長線に
想定される未来

フォアカスティング
(改善策を積み上げる)

自分起点

時間軸

第7次中期経営計画 挑戦指標

挑戦指標		2022.3 計画	2024.3 計画
SD 目標	Sustainable Development 推進投融资	(新規投融资額累計)5,000億円	
	地域顧客の価値向上サポート (コンサルティング相談件数)	850件	1,000件
	地域顧客の資産形成サポート (預り資産残高「投資信託+金融商品仲介」)	2,200億円	3,000億円
	温室効果ガス排出量削減 (%) (2013年度比較の削減率)	25%削減	
	SDGs・金融リテラシーの普及・向上活動 次世代人材の育成活動	(研修等の実施人数) 5,000人	
収益 目標	親会社株主に帰属する当期純利益 (連結)	最終年度 100億円以上	
	顧客向けサービス業務利益	20億円	30億円

(※) SD (Sustainable Development) 目標…地域の持続的発展につなげる目標

長期的挑戦指標	長期的指標
ROE (連結)	5%以上
OHR	65%未満

S D (Sustainable Development) 目標

Sustainable Development 推進投融資 (新規投融資額累計)5,000億円

格付CS先への
新規融資額

格付CS先 = 事業性評価先

金融仲介機能の発揮により
お取引先の持続的発展を支援

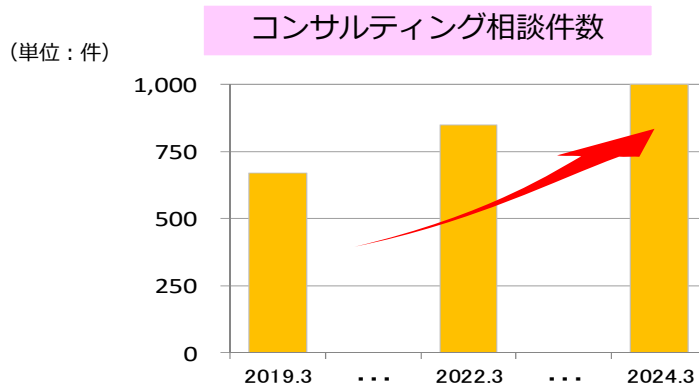
SDGs型商品
新規投融資額

- ・SDGs私募債・医療機関債
- ・ニュービジネス (NB) への投融資
- ・その他該当するもの

ESG新規投資額

- ・グリーンボンド
- ・ESGファンド
- ・その他該当するもの

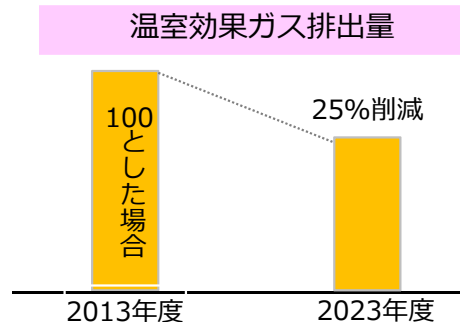
地域顧客の価値向上サポート 1,000件



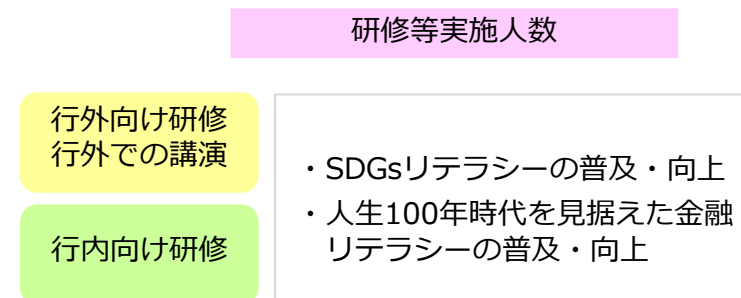
地域顧客の資産形成サポート 3,000億円



温室効果ガス排出量削減 (%) 25%削減

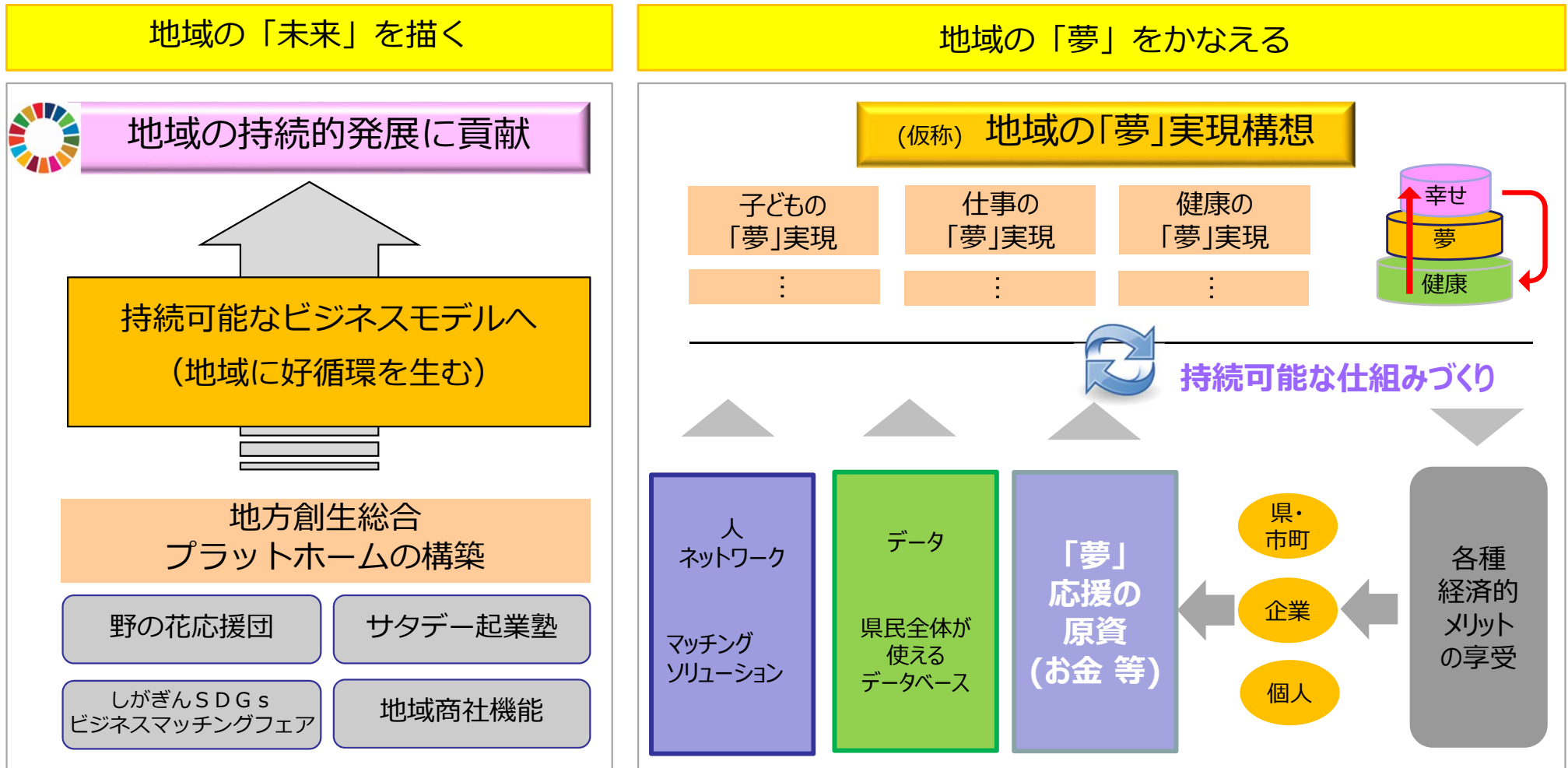


SDGs・金融リテラシーの普及・向上活動等 5,000人



地域の持続的な発展を目指す

- 地域に好循環を生む仕組みを構築。地域の「未来」を描き、地域の「夢」をかなえる。



課題解決型人財の育成

～人材育成テーマ「お客さま・地域社会から必要とされる行員の育成」～

- 課題解決型ビジネスができる人材を育成。行員はコンサル業務・企画業務へ。
- 個々の能力を高めるため、FP1級取得者を大幅に増加させる。

課題解決型人財育成計画

課題解決型人財の育成研修 延べ1,000人

コンサルタントの育成

法人向け課題解決研修
個人向け課題解決研修
外部研修機関への派遣

高度専門人材の育成

中小企業診断士
M&A業務
IT・FinTech関連

グローバル人材の育成

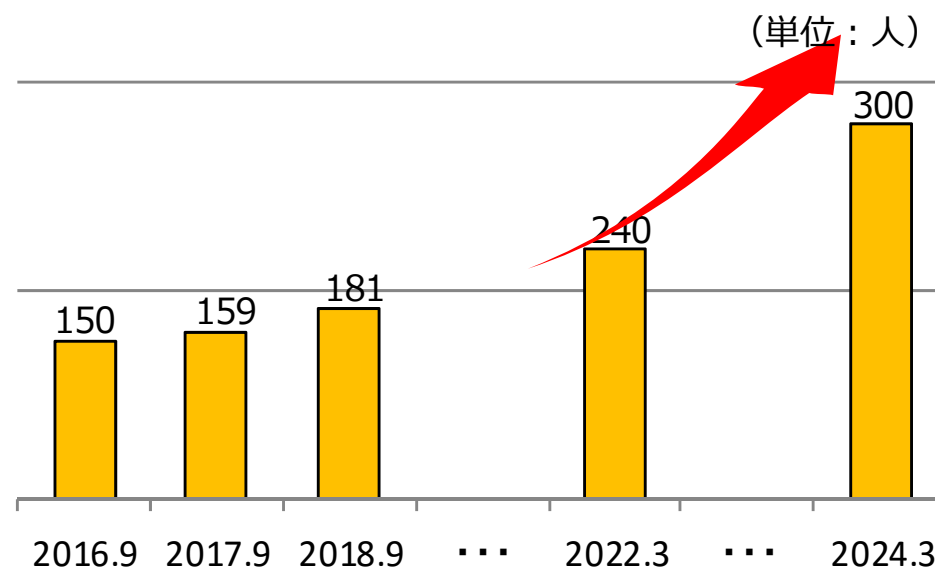
海外トレーニー
海外研修
国際業務関連研修

資産運用担当者の育成

財産プランナートレーニー
外部派遣(投信会社等)
行内研修

FP1級取得者の推移

FP1級取得者 300人



店舗表彰体系の変更

現状

- ・ 短期間（半期）での表彰体系。
- ・ 法人／個人の完全分離型評価体系。
- ・ 500点満点を表彰基準とする評価体系。



銀行視点の短期的な成果追求
につながる側面もある。
(現表彰体系での課題)

視点のチェンジ

今後

お客さま視点の営業推進を評価する店舗表彰体系

店舗表彰を半年⇒1年

地域・お客さまの
課題・ニーズ把握

お客さま視点
にした表彰体系

お客さまの課題の抽出
あるべき姿の整理

お客さまに寄り
添った
コンサルティング

ソリューション
の提供

お客さま視点の行動を評価

1. 経営に統合できるか

- 1) 経営のリーダーシップ（トップダウン）
- 2) 営業推進、人事体系の一体化
- 3) 役職員の教育
- 4) お客さまへの理解、地域の理解

2. 新しいビジネスモデルが創造できるか

3. 中長期的な視点と短期視点とのバランス

- 1) バックキャストとフォアキャストの融合
- 2) PDCAサイクル

ご清聴ありがとうございました